

道徳的価値にかかわる経験を社会的視点に広げる道徳科の授業

Moral lessons that extend one's own experience of moral values to a social perspective

米澤 美雪, 池田 誠喜

YONEZAWA Miyuki and IKEDA Seiki

鳴門教育大学学校教育研究紀要

第 36 号

Bulletin of Center for Collaboration in Community

Naruto University of Education

No.36, Feb, 2022

道徳的価値にかかわる経験を社会的視点に広げる道徳科の授業

Moral lessons that extend one's own experience of moral values to a social perspective

米澤 美雪, 池田 誠喜

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地 鳴門教育大学大学院
YONEZAWA Miyuki and IKEDA Seiki
Naruto University of Education, Graduate School
748 Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto-shi, 772-8502, Japan

抄録：本稿は、小学校道徳科の授業効果を高めるために、道徳的価値にかかわる自分の経験を想起し、それをもとに道徳的価値についての理解を深め、道徳的価値に対する関心を高めた上で読み物資料に取り組む授業展開を構成した。読み物資料における学習では、教材に登場する人物の立場に立って考える役割取得の視点から社会的視点に考えを広げる学習活動を展開することにより道徳性の育成を図ることを目指した。

小学校6学年76名の3クラスを対象として、道徳の内容項目B-(7)「親切、思いやり」を取り扱った。授業の成果と課題の検討のため、それぞれの時間ごとの児童授業の様子、授業アンケート結果、ワークシートの記述を検討した。結果、授業構成上の工夫と展開における一定の成果が確認された。

キーワード：道徳科 経験の想起 役割取得 社会的視点取得能力

Abstract：In order to improve elementary school moral lessons, this practical study reminds children of their own experiences related to moral values, makes them understand their moral values, raises their interest in moral values, and then uses them as reading materials. I organized the lesson development to work on.

In learning using story textbooks, we aimed to foster morality by developing learning activities that broaden our thinking from the perspective of role taking, which considers the positions of the characters in the story, to the acquisition of social perspectives taking.

We dealt with moral content item B- (7) "kindness and compassion" for 3 classes with 6th grade elementary school names. In order to examine the results and tasks of the lesson, we examined the state of the children's lesson, the results of the lesson questionnaire, and the description of the worksheet. As a result, it was confirmed that there were some achievements in the ingenuity and development of the lesson structure.

Keywords：Moral lessons, reminds children of their own experiences, Role Taking, Social Perspective Taking

I. はじめに

1. 特別の教科道徳の状況

道徳教育は、人が一生を通じて追及すべき人格形成の根幹に関わるものであり、同時に民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支えるものでもある（文部科学省、2015）。学校教育においては、道徳教育の要となるものとして特別の教科として道徳科が設定され、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが目指されている。

道徳科は、これまでの道徳の時間の実施においてみられた忌避されがちな風潮、年間時間の量的確保の問題、効果的な指導方法の共有が十分でないことや型にはまった指導方法等の授業内容の質的な問題（平成28年5月

27日教育課程部会考える道徳への転換に向けたワーキンググループ資料4）の改善を図るために設置された。平成29年に告示された改訂小学校学習指導要領の特別の教科道徳編の解説（以下、指導要領解説と記す）には、道徳の時間に課題となっていた授業内容の質的な課題に対するものとして、具体的な学習活動の4点が示されている。

- ・道徳的諸価値について理解する
- ・自己を見つめる
- ・物事を多面的・多角的に考える
- ・自己の生き方について考えを深める

このように、教科として道徳教育の授業が行われ、授業内容の質的転換が図られようとしているが、課題として、単なる生活体験の話し合いの指導、読み物教材の登

場人物の心情理解のみに終始する指導、望ましいと分かっていることを言わせたり書かせたりすることに終始する指導となっていることを浅見(2018)が述べている。筆者自身も道徳の授業に同様の課題を感じるとともに、児童が自分の経験と教材とを結びつかせることができず、自我関与を促す手立てや工夫が十分でない学習になっていたことを感じていた。これらの道徳科における授業課題の改善を図るため、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話し合いにならないよう、児童が主体的に学び、道徳的価値の自覚や生き方についての考えを深められる学習の実現が求められている。

また、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編(文部科学省)によると、道徳性は、他者と共によりよく生きるための基盤となるものとされており、道徳的価値を実現したり実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではなく多様であるということを前提として道徳的価値について理解するとともに、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする必要があるとされている。そのためには、児童が多様な感じ方や考え方に接することが大切である。他者との関係を主体的にかつ適切にもつためには、相手のことを考える役割取得能力、さらに、第三者の見方・考え方に触れる社会的視点取得能力を向上させる必要がある。

2. 道徳的価値の自覚と経験の想起

指導要領解説では、道徳的価値の自覚について、次の三つの事柄を押さえておくことが示されている。一つは、道徳的価値の理解についてである。道徳的価値とは人間らしさを表すものであり、それと同時に人間理解や他者理解を深めていくようにすることである。二つは、自分とのかかわりで道徳的価値をとらえることである。三つは、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われることである。児童が道徳的価値の自覚を深め、自己の中に形成された道徳的価値を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすることが大切である。これらのことが児童の実態に応じて主体的になされるように様々な指導をしていく必要があるが指導要領解説では、より具体化した学習活動として「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」と示され、これらの学習活動を通じた道徳性の育成が求められている。

道徳的価値の理解を図るには、児童一人一人がこれらの理解を自分との関わりで捉える必要があり、自分との関わりとは、自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら考えることである。そのためには、教材の内容に類似した経験を想起させることが有効であると考える。三輪(2020)は、児童には自身が経験した事

柄と初めて読む授業内の資料を関連付け、価値の理解を深めていくような思考が求められることから、すでに経験した事柄と新規の事柄をつなげる「アナロジー推論」(鈴木, 1996)が有用であると示唆している。また、このアナロジー推論を行うことで、教材の内容や道徳的な問題を自分と関連付け、当事者意識をもって考えることができ、教師が望ましい形に収束的に思考させるのではなく、どう思考するのかを児童の手に委ね、拡散的な思考を促すことを可能にするとして述べている。

一方で、アナロジー推論を行う際に、難しさも指摘されている。三輪(2020)は、人が自身の記憶の中から推論のソース(類似した出来事や経験)となる情報を見つけ出すためには、ターゲット(新奇の出来事)とソースの間に何らかの意味関係を見出す必要があり、その際に多大な認知的負荷が生じると述べている。児童が類似状況を想起し、アナロジー推論を可能にする支援方法として先行研究ではいくつか示されているが、その中の「類似状況例の提示」「談話によるアナロジー推論の共有」を授業の中で実施し、類似状況を想起させ、自分と教材の登場人物、道徳的な問題について関連付けて考えられると、価値の自覚の深まりが可能になるのではないかと考える。

さらに、三輪(2020)は、経験の想起をする活動が、下記の二点において意味があるとしている。第一に、自分とのかかわりで道徳的価値を捉えることができることである。自分とのかかわりで道徳的価値をとらえられると、自己理解を深めることにもつながり、自分の心情や考え方、立場等をはっきりさせることができる。第二として、私たちが他者について理解するとき、自分自身を相手に対応付ける感情的アナロジー推論を行っており、類似した状況に置かれたときに生じる心情が、そのまま対象となる相手に転移することから、後半の社会的視点取得能力の場面がより効果的になる可能性を述べている。

3. 役割取得と社会的視点取得能力

道徳教育では、自分自身の考えをしっかりと考えることに加え、自分以外の人の思いを考えることが必要である。この他者の思いを考える力として知られている役割取得能力について、荒木(1991)は「他者の立場に立って心情を推し量り、自分の考えや気持ちと同等に、他者の考えや気持ちを受け入れ、調整し、対人交渉に生かす能力」と定義している。また、本間(2020)は、役割取得能力は、感情的反応にとどまらず、他者の考えや気持ちを受け入れ、それを調整して対人行動に生かす能力で、人と人との相互作用やコミュニケーションの基礎となり、その発達により、子供は自らが行った行為が相手にどのような影響を与えるのかについて理解できるようになり、他者の行動の意味も理解できるようになる。他者の立場

に立ち、感じ、考えるという役割取得能力のもつ特徴は、自分以外の他者をも大切に扱う能力を高めることを述べている。

平成 25 年に示された道徳教育の充実に関する懇談会（文部科学省、2013）では、道徳教育の意義について「自立した一人の人間として人生を他者とともにより良く生きる人格を形成することを目指すもの」と報告されている。本間・内山（2013）は、「役割取得能力は道徳性の向上に関係する能力であり、役割取得能力を向上させることが、道徳性の向上につながる」と述べており、道徳科の授業の中で役割取得能力の機会を設定することは、道徳性の育成においても意味があると考えられる。一方で、荒木（1991）は、Selman（1980）が示した役割（視点）取得能力の個人における発達を子どもの視点と他者の視点が分化し、視点間の調整がなされていく社会的視点の分化ととらえ、役割（視点）取得能力を社会的視点取得能力と定義し、社会的視点取得能力の発達に着目していることを述べている。本間（2020）は、役割取得理論を基盤とした Selman（2003）の社会的視点調整理論を取り上げ、社会的視点調整能力が発達していくと、対人間の葛藤を解決する具体的な行動や手段である対人交渉方略の変化について述べている。

道徳教育においても、自己の生き方について考えること、社会の中でいかに生きていけばよいのか、社会の形成者としてどうあればよいのかについて考えることが大切である。また、その考えに基づいて人間としてよりよく生きるための行為を、自分の意志や判断に基づいて選択し、悩み、葛藤しつつも一人一人が他者と共に心を通じ合わせて生きることが求められる。このことは、対人交渉方略に関わる社会的視点取得能力にも関係すると考えられる。

これらを踏まえ、本実践では、同義で扱われることも多い役割取得と社会的視点取得能力の概念と機能を取り上げ、小学校における道徳科の授業に活用し、道徳性の育成に役立たせる授業を構想したい。本実践では、Selman（2003）の示した、道徳的行為を可能とする内面的特性としての社会視点調整の意義を鑑み、社会視点能力を取り上げることとする。道徳教育において重要視される価値の一つである思いやりは、社会的視点取得能力の獲得が重要であるとされているとともに、児童・生徒が他者と共に適切な生活を送るために必要であり、重要な要因であると考えられる。道徳の授業の中で社会的視点取得能力の機会を構成することによって、他者がなぜそう感じるのか、考えるのかということ想像するなど他者理解を深めながら、改めて自己を見つめ、他人を思いやる気持ちや尊重する気持ちが育っていくことにつながるのではないかと考える。

II. 研究の目的

本研究の目的は、自分の経験を想起し、それをもとに道徳的価値について考えることを通し、当事者意識を持った学習の実現とともに、友達や教材の登場人物の立場に立って考える社会的視点取得を通して、道徳性を養うことを目指した授業実践を行い、その効果について検証することである。

III. 方法

1. 対象

公立小学校 第6学年（全76名）3クラス

2. 研究方法

本研究では、道徳科において児童が自分の経験を想起し、友達や教材の登場人物の立場に立ち、社会的視点で考える学習活動を通して、自己の生き方についての考えを深める授業を実施し、その指導過程の妥当性及び成果と課題について、アンケート調査（図1）、ワークシート（図2）の記述を用いて検討する。

(1) アンケート調査（図1）

本実践では、①④経験の想起、②③⑤社会的視点による学習活動について、本調査項目を用いて「考えなかった」を1点、「とてもよく考えた」を10点とした1点ごとの間隔スケールで回答を求めた。

(2) 教材「ここを走れば」（小川、2020）

ワークシート（図2）を用いて、授業の経験を想起したことによる、規則についての考えを深める学習活動について検討するため「きまりがないと困るなあと思ったことがありますか」を設問、次に、社会的視点での学習活動の状況を検討するため「両方の立場にたってみて、自分にとって規則ってなんだと考えますか」を設問、最後に「今日の感想を書きましょう」と設問し、授業全体の成果についての検討。

IV. 学習支援の工夫

1. 経験を想起させる工夫

(1) 類似例の提示

当事者意識をもった学習の実現のために、教材の内容に類似した経験を想起させたいと考える。自発的に想起できるのが理想だが、それは容易ではないということが先行研究でも明らかになっている。想起させる支援として、まず、口頭、文章等で具体例を提示する。学習の始めに、ねらいに関する道徳的価値を含んだ事象や教師や児童等の体験を提示し、各々の類似経験を想起できるよ

授業アンケート ()組 名前()

① きまりがなくて困ったこと(あってよかったこと)を思い出しながら、きまりはなんのためにあるのかについて考えましたか。

とてもよく考えた 考えなかった

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

② ぼくの気持ちや考え方について想像しましたか。

とてもよく考えた 考えなかった

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

③ 父の気持ちや考え方について想像しましたか。

とてもよく考えた 考えなかった

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

④ 身の回りにあるきまりを思い出しながら、「きまりは何のためにあるのか」について、これまでより、考えが深まったと思いますか。(前半)

とても深まった 深まらなかった

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

⑤ 登場人物の気持ちや考え方を想像して話し合うことで、「きまりは何のためにあるのか」についてこれまでより、考えが深まったと思いますか。(後半)

とても深まった 深まらなかった

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

図1 授業アンケート

()組 名前()

☆ きまりがないと困るなあと思ったことがありますか。

☆ 両方の立場に立ってみて、自分にとっての規則って何だと考えますか。

メモ

--

☆ 今日の感想を書きましょう。

図2 「ここを走れば」ワークシート

う支援する。

(2) 経験想起の共有

上記の類似例の提示により想起できた経験について、小グループや全体で共有することで、類似例に関する情報が増え、一つの例では想起できなかった児童も、想起するきっかけを見出すことができるようにする。また、たとえ想起できなかったとしても、自分と近い友達の経験を聞くことで、そのときの気持ちや考えを想像したり自分に置き換えて考えたりできるようにする。

2. 社会的視点取得の工夫

(1) 登場人物の立場に立って考える活動

登場人物の立場に立って、その感情や考え方を想像させるために、登場人物の行動の理由や、その時の気持ちについて問う。その際、活動「1」で考えた道徳的価値や道徳的な問題について意識できるようにする。「自分はこう思わないが、なぜ登場人物はこう考えた(行動した)のだろう。」「自分と登場人物の考え方は似ている気がする。行動の理由も同じなのだろうか。」「自分と登場人物はこう考えるが、世の中のルールから考えるとどうなのだろうか。」等、自分と他者との共通点や相違点を認識したり、第三者の視点から個々人の視点を想定したりする等、他者や人間について理解できるようにする。

(2) 多面的・多角的な見方

児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話しながら物事を多面的・多角的に考えられる授業を実践したい。社会的視点取得の機会を、そのための手段の一つと考える。道徳的価値の理解を基に、多面的・多角的に考えることができるようにするために、活動「1」の経験の想起が効果的であると考える。自分自身の経験や価値についての理解を通して、自分以外の他者がどう感じ、どう考えるのかということ想像することで、疑問や迷いが生じ、様々な視点から道徳的価値や道徳的な問題について理解しようとするのではないかと考える。

(3) 授業構成上の工夫

授業前半と後半の構成上の工夫を表1に示す。

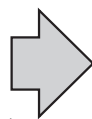
経験の想起と社会的視点取得を取り入れた授業のねらいとして、以下の3つを挙げる。

まず1点目は、道徳的価値の理解を自分との関わりで捉えさせることである。価値について、自分との関わりで捉え、深めたりできるだけ強く感じる事ができたら、「こうしてみたいな」「これっていいな」という気持ちになり、道徳的価値を発展させていこうという思いを持つことができると考える。道徳的価値や道徳的な問題を、より強く、自分との関わりで捉えるために、経験を想起させ、それを基に様々な考え方に触れるようにさせる。

2点目は、児童の主体的な学びの実現である。「分かってるし…」「きっと先生はこう言ってほしいのだろうな。」

表1 授業構成上の工夫（前半と後半）

前半	後半
<p>①類似した経験の想起</p> <p>(a) 当事者意識をもって学習できるようにするため。(主体性)</p> <p>(b) 登場人物の立場や心情、考え方を推測しやすくするため。</p>	<p>③教材の登場人物の立場に立ち、考える。(社会的視点取得能力)</p> <p>(a) 登場人物の心情や考えを予想し、他者理解を深めるため。</p> <p>(b) いくつかの立場に立って考えることで多角的・多面的な見方に気づかせるため。</p>
<p>②自分が当事者として、道徳的な問題に対してどう考えるかについて話し合う。</p> <p>(a) 当事者意識をもって、問題について考えることができるようにするため。</p> <p>(b) 他者と自分の関係を考えることにより、自分の置かれている立場を理解させるため。</p> <p>(c) 自分がもたらす社会的な影響を認識させるため。</p>	<p>④他者（第三者）の視点から自分を見つめる。(社会的視点取得能力)</p> <p>(a) 他者に役割取得することで、自分の考えとの違いに気づき、より広く理解できるようにするため。</p>



ではなく、当たり前だと思っていたことも、実は分からなかったりその意味を考えていなかったりするということが気付けたい。そうすることにより、きれいごとや教師が求める答えを探すのではなく、真剣に一生懸命考えることができる。この構成では、自己の経験から価値の意味等を考えていくので、与えられるのではなく、「自分で考えたこと」と児童にも意識させられると期待する。また、このシンプルな構成により、教師も児童の話に耳を傾け、児童の考えを尊重しようとする意識が働くのではないだろうか。「経験の想起」「社会的視点取得」という2つの構成で、授業の組み立てがシンプルになり、児童の考えをどうつなげるのか、どう生かすのかということに集中できる。

3点目は、自分と比べながら、他者の考えや気持ちを想像する機会の設定である。これまでの自身の授業では、自分と教材の登場人物のような他者とを関連付けて考えるような学習活動が十分できていなかった。そのため、教材は自分から遠いものとなり、道徳的価値に向き合うことや自分事として考えることができていなかった。このような反省から、「現実と仮想（教材）をつなぐ授業」として、この授業構成を設定した。自分と登場人物とを関連付けながら、他者理解しようとするを通して、道徳的価値について深く考えられるようにしたい。

V. 教育実践の実際

1. 指導計画

本実践の指導案を表2に示す。

(1) 題材名

ここを走れば（『道徳 6年 きみがいちばんひかるとき』光村図書）

(2) 資料について

本教材は、祖父の危篤の知らせを聞き、高山に車で向かう主人公の家族が、一刻でも早く祖父のもとに行きたいと思いつつ、法を守る行動をどれだけ貫けるかを描い

たものである。交通渋滞の中で、急いでいるときでも交通ルールを遵守する父と、ルールを守らないドライバーがいるという実態を知り、揺れ動く兄妹の心が表現されている。

この教材を通して、法や規則を守る根底にある、人を思いやる心に気づかせたい。その心が、自他の権利を尊重するために、法や規則を守ろうとする意欲や態度につながることを、話し合いを通じて理解させたい。

2. 授業実践の実際

(1) 学習活動による道徳科の評価

まず、「道徳的諸価値についての理解」「自己を見つめる」を目的とした学習活動として、きまりについて想起した経験を基に、なぜきまりがあるのかについて話し合う学習活動を行った。「道徳的諸価値についての理解」については、話し合い、ワークシートから、「きまりは、自由に生きるために必要なこと。」「一人だけ守っても意味がない。全員がちゃんと守ることで意味をもつ。」といった生きるうえで大切なことという視点、「でも、どうしても時は破るときもある。めちゃくちゃ急いでるのに、横断歩道が遠い時とかは、道を横切る。」「理由があるときは、規則のことは考えられない。」といった大切ではあるが実現する難しさという視点の確認された。「自己を見つめる」については、「廊下を走っていた人とぶつかって、きまり守ってよと腹が立った。」「一人一個の限定の物で、私はがまんして一個にしたのに、守らずに何個も手に入れた人が結局得をした。こんなきまり、意味ないと思った。」というような、自分の経験と関連付けた考え方が確認された。これらのことから、概ねねらいとした学習活動が展開できたと考える。

次に、「多角的・多角的に考える」ことを目的とした学習活動として、教材を読んで、登場人物の立場に立ち、気持ちや考えを想像するという学習活動を行った。危篤の祖父に会うためにきまりを破ろうとするぼくの立場では、「生きているおじいちゃんに会いたいの、きまり

表 2. 学習指導案

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動	授業の工夫	評価の観点
20 (分)	①想起した経験をもとにきまりについて話し合う。 ○身の回りがあるきまりってどんなのがある？これがないと困るなって思ったことある？ワークシートに書きましょう。 ・交通ルール。交通事故にあう。 ・学校のルール。 ○きまりってなんのためにあるのかな。 ・命を守るため。 ・なかったら、みんなが好き勝手にして、その人たちだけ得をする。	○身の周りがあるきまりについて、「必要」「あったほうがいい」と思った経験を想起させる。 ○自分の経験を通して、価値の理解を深められるようにする。	① ②	○類似状況例を与えることで、類似状況を想起できるようにする。 【①(a)(b)】 ○他児童のアナロジー推論を聞くことで、それまで意識していなかったことや新しい考え方に気付かせる。 【①(a)(b)】 ○自分の経験を基に話し合うことを通して、価値に対する考え方をはっきりさせたり、気付いたりさせる。 【②(a)(b)(c)】	☆例の提示により、自分の経験の類似状況を想起して、ワークシートに書いている。 ◇経験をもとにきまりの意味や意義について考えようとしている。(発言、ワークシート)
20 (分)	②教材を読んで、ぼくの立場とお父さんの立場で考え、話し合う。 ○ぼくはどう思っていたのだろうか。 ・規則を破るのはいつもというわけではなく、今回はどうしてもという理由がある。 ・規則を破ってでもおじいさんに会いたい。 ○お父さんはどう思っていたのだろうか。 ・人に迷惑をかけることになるかもしれないのに、規則を破ることはできない。 ○両方の立場を考えて、自分にとっての規則って何だろう。 ・おじいちゃんに会いたいという気持ちは本当に分かるけど、全員が自分の思いだけを優先させたらきまりの意味はなくなるし、めっちゃくちゃになる。規則は誰かの都合によって守る、守らないものではない。	○②の学習活動を基に、考えさせる。 ○自分とは違う考えだとしても、両者の立場に立ち、どう思っているのか、どう考えているのかについて考えさせる。 ○「規則を破っても仕方がない」と考えるほく、「守るべきだ」と考える父の立場に立って、複数の価値観が対立する中で多面的・多角的に考えさせる。 ○1, 2の活動を活かし、道徳的価値の自覚を深められるようにする。	③ ④	○登場人物の立場に立ってその感情や考えを想像させる。 【③(a)】 ○様々な立場から「規則の尊重」という価値について多面的・多角的に考えられるようにする。 【③(b)】 【④(a)】 ○他者の視点から自分を見つめ、自己認識を深められるようにする。 【④(a)】	◇他者の立場に立って考えることを通して、様々な視点からきまりについて考えようとしている。(発言、ワークシート) ☆両方の立場に立って考えた自分の思いや考えについてワークシートに書いている。
5 (分)	③学習を通して学んだことをまとめる。 ○今日の感想を書きましょう。 ・切羽詰まったときに、どう選択するのは簡単ではないことが分かった。でも、自分のことだけ考えて行動するのは違う気がする。	○道徳的価値の自覚の深まりだけでなく、学習に対する主体性など意欲等についての記述でもかまわないことを伝える。	④		◇これからの自分の生き方やどのように学習したかについて考えたことや感じたことを書いている。(ワークシート)

・学習活動

- ① 道徳的諸価値について理解を深める学習活動
③ 道物事を多面的・多角的に考える学習活動

- ② 自己を見つめる学習活動
④ 自己の生き方について考えを深める学習活動

や他人のことなんて考えられない。」「命ときまりなら命の方が大切。」「自分だけ守っても意味はない。」などという意見が出た。一方、このような状況でも規則遵守を貫く父の立場では、「もし、救急車がきたときに路側帯にいて、乗っている人に何かあったら後悔する。」「自分と同じような理由があって急いでいる人もいるかもしれないのに、自分だけ破るのはなんかずるいと思っている。」「規則を破って誰かに迷惑をかけたなら、おじいちゃんが悲しむ。」「法律で決められているのに、破ったら高速道路の意味がなくなる。」「混んでいて無理やり横入りされたことがあって、すごく腹が立った。お父さんもそんな経験があったのかも。」などの意見が出た。このように、対話を通して、様々な視点からきまりの意味について考えられたと感じた。「自己の生き方について考えを深める」を目的とした学習活動の振り返りの感想には、「きまりの意味をこんなに考えたことはなかった。やっぱりきまりって大切なのだと思った。」「破るとしても、

破ってもいいのかどうかをちゃんと考えたい。」「ぼくは、規則は自分と他人のためだと思いました。理由は他人だけでなく自分も規則を守らないと、みんなは『自分だけ守らなくてもいい』という考えになってしまい、好き勝手に行動してしまうから。」など、きまりについて自分自身の問題として捉えたり、これからの生き方を考えたりした考えが確認できた。

(2) 経験の想起

身の回りがあるきまりで、「あった方がいいもの」を、理由とともに想起させた。交通ルールや学校のきまり、犯罪の取り締まり等が挙げられた。これを基に、「きまりはなんのためにあるのか。」ということについて話し合った。この発問に対しては、「みんなが安全に暮らすため」「自分勝手をする人が出ないようにするため」「自由に暮らすため」「でも、きまりを破ったこともある。」などという意見が出た。「このきまりがあるから安心して暮らせるなあと思ったことある？」等、そう考える理

由を聞いたり、「そんな大切なきまりなのに、破りそうになるってどういうことかな。」と問い返したりした。これらに対して、「交通ルールもそうだけど、きまりがあるから、みんな守ろうとするし、結果としてみんなが幸せに暮らせる。」「横断歩道が遠いとき、左右を確認して道路を渡った。めんどくさかったから。誰にも迷惑はかけてないと思う。」などという発言があった。

(3) 社会的視点取得

教材を読み、登場人物の立場に立って、気持ちや考え方について想像させた。何人かの児童は、想像しやすい立場としにくい立場があると言った。規則を破っても仕方がないと思っていた「ぼく」の気持ちについては、「家族にどうしても会いたいから仕方がない。」「生きたおじいちゃんに会えるのはこれが最後かもしれないのに。」「他の車やって通っているのに、なぜ事情があるぼくたちががまんしないとイケないのか。」等、規則と切羽詰まった自己都合の間で揺れる登場人物の気持ちを想像していた。また、ほぼ全員の児童が、「ぼくの気持ちがかかる」と答えた。

一方、規則を遵守する父の気持ちについては、「命がかかっている、規則を守らずに警察につかまったら、余計に着くのが遅くなる。」「お父さんは大人なので、そのときの感情に流されず冷静に考えて、規則を守ることを選択できた。」「おじいさんは、人に迷惑をかけるのが嫌な人だから、会えなかったとしても息子として、ルールを守る、人に優しい、人のことを考えられる人でいたかったから。」「他の人の命がかかっている救急車の邪魔をして、もしその人が死んでしまったら、その人の家族に申し訳なさすぎる。」等、そのときの感情に流されず規則遵守を選択できることや、誰かを思いやる気持ちから、規則を守ろうとする父の気持ちを想像していた。

そして、両方の立場を考えて、「自分にとって、規則とは何だろう。」と問い、道徳的価値について考えさせた。児童は様々な考えをもっていたが、指導者の不適切な時間配分により、その考えを共有したり吟味したりすることが十分できなかつた。

VI. 成果の検討

1. 授業評価の結果

本授業の成果について、アンケート調査及び児童のワークシートの記述を整理し分析した。

(1) アンケート調査結果

アンケート調査の結果を表3と散布図(図3～7)に示す。アンケート調査の設問①「きまりがなくて困ったこと(あってよかったこと)を思い出しながら、きまりはなんのためにあるのかについて考えましたか。」は、全体で平均8.45、標準偏差1.76であった(図3)。設問②「ぼくの気持ちや考え方について想像しましたか。」は、全体で平均8.27、標準偏差1.73であった(図4)。設問③「父のきもちや考え方について想像しましたか。」は、全体で平均8.57、標準偏差1.69であった(図5)。設問④「身の回りにあるきまりを思い出しながら、『きまりは何のためにあるのか』について、これまでより、考えが深まったと思いますか。(前半)」は、全体で平均8.09、標準偏差1.92であった(図6)。設問⑤「登場人物の気持ちや考え方を想像して話し合うことで、『きまりは何のためにあるのか』についてこれまでより、考えが深まったと思いますか。(後半)」は、全体で平均8.68、標準偏差1.69であった(図7)。

次に、クラスごとの授業に差がないかを検証するために、1要因3水準の分散分析を実施($F = 0.13 \sim 2.11$)、3クラスともアンケート調査の平均点に差がないことが認められたため、授業の効果としては同等の結果であった。

(2) ワークシート結果

ワークシートに記述された児童の考えをそれぞれ意味がわかるよう切片化した後、内容が同じものと捉えられる文をまとめカテゴリー化カテゴリー名を付けて、児童の考えがわかりやすくなるようグルーピングした(表4)。

2. 成果と課題の検討

アンケート調査の結果から、経験の想起に関する項目①④ともに平均8.0以上だったことから、本授業における前半の学習活動が、きまりについて自身の経験を想起

表3 アンケート調査結果

	全体 (n=75)		A組 (n=25)		B組 (n=25)		C組 (n=25)		自由度	F値	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD			
①	8.45	1.76	8.84	1.25	8.44	1.94	8.08	1.98	2,72	1.17	n.s.
②	8.27	1.73	8.40	1.50	8.28	1.62	8.12	2.07	2,73	0.16	n.s.
③	8.57	1.69	8.84	1.25	8.72	1.67	8.16	2.06	2,74	1.15	n.s.
④	8.09	1.92	8.24	1.67	8.08	1.87	7.96	2.25	2,75	0.13	n.s.
⑤	8.68	1.69	9.12	1.33	8.76	1.23	8.16	2.25	2,76	2.11	n.s.

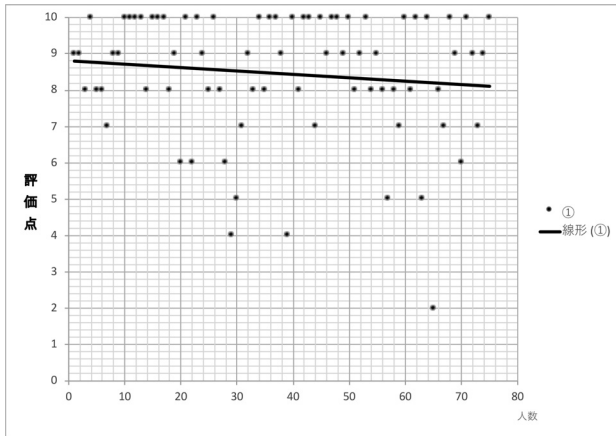


図3 授業アンケート①の散布図

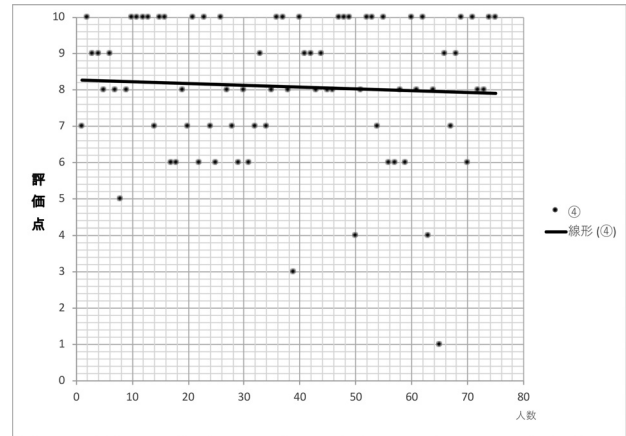


図6 授業アンケート④の散布図

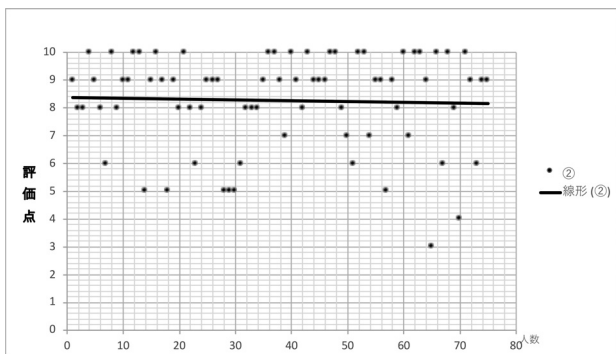


図4 授業アンケート②の散布図

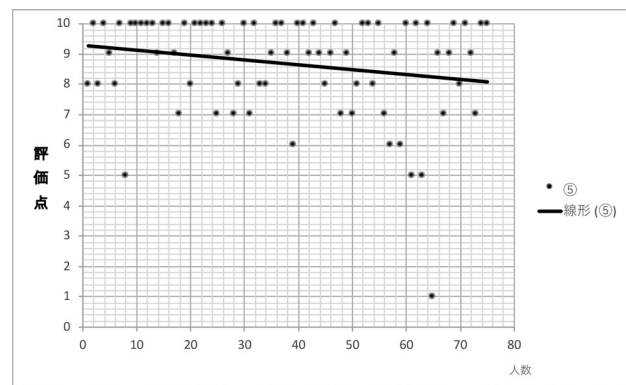


図7 授業アンケート⑤の散布図

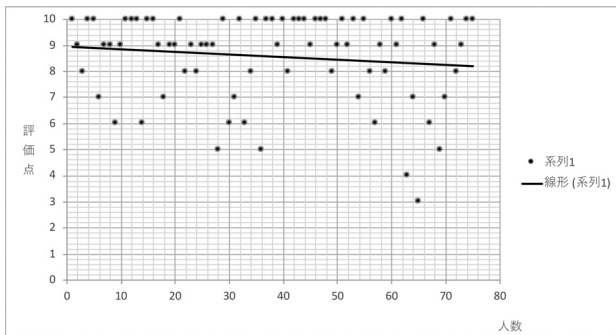


図5 授業アンケート③の散布図

し、それに基づいてきまりについて考えを深める学習となったことが示唆された。また、役割取得・社会的視点に関する項目②③⑤の平均が8.0以上だったことから、思いやりかわる学習活動が実施され、社会的視点能力を育む機会をつくりだせたのではないかと推察される。

(1) 経験の想起

経験の想起を促し、それを基に道徳的価値について考えることは一定の効果があつたと考える。道徳的な価値について、実感を伴って理解させたり、経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせたりしながら考えを深められるようにするためには、道徳的な問題等を自分事と捉える必要がある。ワークシートの感想からも、道徳

的な問題を自分の経験と重ねて考えたからこそ、主体的な学習の実現につながったのではないかと考える。

(2) 社会的視点取得

道徳的価値の自覚を深める手段として、多面的・多角的に考えることが重要視されており、社会的視点取得の場の設定は、多面的・多角的な視点から物事を理解したりとらえたりすることができると思う。今回の実践では、前半に自分の経験を想起して、道徳的価値について実感を伴いながら考えさせた上で、後半は自分とは異なるいくつかの立場に立ち、自分以外の他者がどう感じ、どう考えるのかということ想像することで、疑問や迷いが生じ、様々な視点から道徳的価値や道徳的な問題について理解しようとするので、より考えを深めることが目的である。授業後半の社会的視点取得を目的とした話し合いの中では、二人の立場に立つことで、思いやり、自らの義務、親の気持ちの尊重、自己都合の優先、経験の差等、様々な考え方が出た。「私がぼくの立場だったら、～」「お父さんはおじいちゃんのために～」等、人間関係や状況などを想像しながら考えていることが分かる発言も多かった。また、自分や友達、登場人物だけではなく、第三者の視点から、自分の考えや気持ちについて考えている児童もいた。

表4 「ここを走れば」ワークシート結果

経験の想起カテゴリー
<1>社会的慣習領域
・公共の建物の中ではたばこを吸わない。
・夜の町やいろいろなイベントで大人数が出歩くこと。
・廊下は右側を歩いて通る。
・図書館では大声で話さない。
・ポイ捨てをしないきまり。自分たちのまちがきたなくなると悲しくなるし困る。
<2>道徳領域
・いじめや暴力をしてはいけない。
・交通のルールがないと、車にはねられてけがなどするからなかったら困る。
・人の悪口を言わない。
・友達の物をこわさない。
・飲酒運転をしない。
<3>個人領域
・ゲーム禁止デーがあるのに、いつもゲームをやっている。
・お金がないと買い物ができなくて困る。

社会的視点取得カテゴリー
<1>段階2
・守るのと守らないとは場合で変わる。
・私だったら路側帯を通過していたかもしれません。自分の家族の命は規則より大事だから。
・自分にとっての規則は、自分を安全にするためのもの。
・周りの人に迷惑をかけないなど、軽い物だと場合により守るか守らないかを決める。
・きまりを守る、守らないという考えの区別の仕方が難しいけど、守る、守らないを考えながら生きていきたい。
<2>段階3
・規則を守るのはデメリットもあるけど、それ以上のメリットが自分や他人に返ってくる。
・誰かが関わっていてその人に被害がでるのは守らないといけない。
・ただのきまりではなくて、誰かのことを思って作られた大切なきまり。
・一人一人の気持ちを考え行動できるためのもの。
・誰かが関わっていてその人に被害がでるのは守らないといけない。
・自分勝手な判断で人に迷惑をかけたくない。
<3>段階4
・安全に過ごしたり暮らしたりするため。国を守るため。
・ぼくは、規則とは他の人のためにするということだと思いました。なぜなら、自分が規則を守らなくて自分がけがをするのはいいけど、そのせいで他の人にけがをさせたりしてはぜったいにだめだからです。
・世界がよくなること。きまりがなかったらみんなが勝手なことをして世界がみだれてしまう。
・規則は平等じゃないとだめだと思う。
・きまりがあるから平和に暮らせる、きまりを守らなくなると毎日のように事故がおこったり、ここまで平和な暮らしはできなくなる。

(3) 授業構成の工夫

前半の活動で自分の経験を基に、道徳的価値の意味について話し合うことで、登場人物の立場を考えながら価値の意味について考える活動に意味をもたせることがで

きたのではないかと考える。前半で自分の経験を想起したので、後半の他者の立場で考えるときに、「今までは、人が関わる規則は破らないと思っていただけ、ぼくの立場になったらすごく迷うと思う。」という、葛藤が生まれた児童もいた。また、教師も「さっきはきまりを破るときもあるって言ってたけど、この場合は守ると考えているんだね。違いは何だろう。」等、考えを深めるための手立てとして使えることが分かった。このように、他者理解を促す場合には、その状況や道徳的価値、道徳的な問題に関わる自身の経験やそのときに生じる気持ちや考えをもたせておくことが必要であると考え。そうすることで、理由を含めた他者の考えを理解したり、他者の気持ちや考えに共感したり、自分自身を他者の視点から見つめたりすることができるのではないだろうか。

(4) 自己の生き方を深めることについて

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編には、自己の生き方についての考えを深めていく際には、「道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりできるようにするなど…」とある。これに関しては授業の前半で行い、それぞれが自己の経験を想起し、考えた。また、「他者の多様な感じ方や考え方に触れ…」は、友達の考えだけでなく、教材の登場人物の感じ方や考え方にも触れた。これらの学習活動のアンケート結果からも、多数の児童が「考えが深まった」と感じたことが確認された。このような学習活動を通して、自分事として考えたり、「なぜだろう。」と疑問をもったりする、児童の主体的な学習が展開されることで、自己の生き方を深めようとするのではないだろうか。

(5) 課題

経験を想起し、道徳的価値の意味について考える活動では、発言した児童が少なかったため、「意見を共有して想起を促す」という支援方法が不十分になった。また、友達の考えや教師の発問に、小さな声でつぶやいたり、ジェスチャーで反応したりした児童もいたので、もっと取り上げて広げるべきであったと反省している。アンケート結果からも、「経験を想起して価値について考える」ことが、できなかった、と感じた児童が数名いた。今後は、このような児童の思考をどう把握し、どう支援していくかということについてさらに考えていきたい。

また、本授業のねらいとする価値を「B-(7)親切、思いやり」としていたにもかかわらず、思いやりの視点の記述が見られたものは少なかった。個人や集団が安全かつ安心して生活できるという規則尊重の意義についての考えが出たときに、「他者のことを考えたら、きまりを守りたくなる、守らなければならないと感じる」という思いやりの視点を追発問などでもっと言葉として出させていたら、規則尊重の根底にある思いやりを意識できた

のではないかと考える。

さらに、社会的視点取得の場では、想起した経験と登場人物の立場に立って考えることをもっと強く関連付けるべきだったのではないかと考える。「切羽詰まった時や、自分なりの理由があるときに規則を守る(守らない)」という経験をもっと想起させたり、共有したりすれば、より登場人物に心情を転移させ、多面的・多角的な考えが出たのではないだろうか。

そして、この構成での授業は一定の効果は表れたが、どの価値項目でも、またどのような内容の教材でも汎用できるのかについては、さらに研究を重ねていきたい。

<文献>

- 荒木紀之(1991)モラルジレンマ資料と授業展開 小学
校編 明治図書
- 浅見哲也(2018)独立行政法人教職員支援機構 オンライン講座 道徳化の授業の充実を図るために：校内研修シリーズ No23 <https://www.nits.go.jp/materials/intramural/023.html> (2021年8月閲覧)
- 三輪聡子(2020)道徳の時間における児童の資料理解
風間書房
- 文部科学省(2013)今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～ https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/096/houkoku/_icsFiles/afiedfile/2013/12/27/1343013_01.pdf (2021年8月閲覧)
- 本間優子・内山伊知郎(2013)役割(視点)取得能力に関する研究のレビュー 新潟青陵学会誌第6巻第1号 pp97 - 103
- 本間優子, 内山伊知郎(2017)役割取得能力が学校適応に影響を及ぼすプロセス 心理学研究 88巻2号 pp184
- 本間優子(2020)児童期における役割取得能力と学校適応の関係 ミネルヴァ書房 pp9 - 11
- 文部科学省(2015)小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編
- 文部科学省(2016)平成28年5月27日教育課程部会考える道徳への転換に向けたワーキンググループ資料4 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/078/siryu/_icsFiles/afiedfile/2016/08/05/1375323_4_1.pdf (2021年8月閲覧)
- 小川信夫(2020)ここを走れば 道徳 きみがいちばんひかるとき 6年 光村図書 pp127 - 130
- Selman, R. L. (1980) The growth of interpersonal understanding. Orlando, FL: Academic Press.
- Selman, R. L. (2003) The promotion of social awareness: Powerful lessons from the 21st century 2nd International Conference

on Moral Education. The growth of interpersonal understanding. Orlando, FL: Academic Press.